



おち葉をひろひて

新庄 よしこ

笹 ぶだう ひるがほ ポプラ ばら
もみぢ いちふ すゞかけ 榎 くぬぎ
へちま あぢさゐ 等、等

右のおち葉を集めて黒ラシャ紙に貼りたるが上
圖の寫眞。是等は殆んど幼児と共に拾ひ來しもの
にて園内或は本校 女學校、小學校等の木々の葉。
ずつと前に拾つて來て何かにしようと思つてお
いた、散歩の折、目についたので何とはなしに拾
つておいた、こゝに列べる爲にとて特に拾つて來
た、それ等の集りである。

初冬の午後陽を背にうけて貼つてゐると、もの
静かな三四人の子はデッと見つめてゐる、こんな

のもあるとて選り出したり、こゝへあいた方がいいと口を添へてゐる子もある。

すつかり貼り了へてから保育室のかべに貼つてあいた。二三人或は一人でも、この前に立つて居るのを見かけるとうれしい氣がする、ゆびさしでもして話し合つて居る時は猶更のこと。

同じ種類の、つまり枯葉とか落葉とかいふ物の一つの種類の中には、こんなにもいろとりどりの葉がある、大きい、小さい、細い、太い、茶色の、黄色の、白のとさまざまに變つたのがあるといふ事が幼児にわかれば一つ一つの葉が何といふ名であると嚴格に知らせなくてもよいであらう。殊に日々保育室で親しく見るのであるから珍しいものを一度見せたと云ふよりはよい觀察の材料にならうといふ師の言葉は、丁度秋口から拾ひ集めて籠やら箱やらにあふれてゐたあち葉を貼らずには居られなかつた。さうすれば枯葉に限ら

ずたやすく手近によい材料がある様な心易さをも感じる。

或時この前に立つてゐた子に聞いて見た。知つてゐる葉の名を、いてふ、もみぢ、笹、ばら等は大きい子は知つてゐる、中にはあぢさゐがある筈だと云つてさがしてゐたものもある。

十一月の未神田三崎町通りを保育大會へと歩み行くつま先にふと目につくすゞかけの大き葉、拾ひあげて家に持ち歸つて机のはしにしばらくあつたがいつの間にかなくなつてしまつた。かうして列べるならあの葉も惜しかつたと話せば、翌朝先生が幼稚園の机の上のせてあいて下さつたので喜んだもの、これもこの中にまぢつてゐる。